

日 時	令和6年7月4日(木) 10:15~10:45 第1回経営会議
出席者	平原副市長、伊地知副市長、大久保副市長、佐藤副市長、技監、政策経営局長、総務局長、財政局長、中區長
欠席者	脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長、市民局長
議 題	下水道浸水対策プランの策定について【下水道河川局】
議 事 要 旨	<p>【論点】</p> <p>目標整備水準の降雨による浸水を防ぐ下水道施設の整備と、目標整備水準を超える降雨による浸水被害の軽減に資する対策を効率的に進めることを目的に、下水道浸水対策プランを策定する。</p> <p>ポイントは下記のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気候変動を踏まえた防災目標と2段階の減災目標を設定 ・ これまで進めてきた「発生対応型」の浸水対策に加えて、事前防災の観点から「予測発生型」の浸水対策を推進 ・ 施設を整備する地区の優先度を浸水リスクによって設定 ・ 概ね20年を目途に、財政ビジョンを踏まえた施設整備投資計画を策定 <p>【説明要旨】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気候変動の影響により、2040年の降雨量が現在の1.1倍に増加する等の予測が国から示されているため、対応が必要である。 ・ 気候変動を踏まえた新たな防災目標として、目標整備水準の降雨を現在の1.1倍に引上げる。 ・ 減災目標の1つ、甚大な被害を防ぐ目標は、復旧にかかる費用や期間が大きい床上浸水とし、対象とする降雨は、本市で令和元年に観測された既往最大降雨を考慮し、1時間あたり100mmとする。 ・ 減災目標の2つ目、命を守る目標は、1時間あたり153mmに対する安全な避難の確保とする。 ・ 浸水が発生した地区の整備に加え、事前防災の観点から、浸水リスクが高い地区から整備する「予測対応型」の対策を進める。 ・ 施設を整備する地区の優先度は、「浸水想定」と「浸水による影響度」を組み合わせた「浸水リスク」をもとに設定している。 ・ 浸水リスクの評価で被害が甚大になる地区の整備を進めていくが、今後約20年では浸水リスクが最も高い地区を流域として受け持つ16幹線及び、252地区の整備を行う。 <p>【主な意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 河川についても、気候変動を踏まえた対応が必要であるため、国、県と連携して検討していく必要がある。 <p>【結論】</p> <p><u>主な意見を踏まえつつ、局案について了承。</u></p>